つくば国際戦略総合特区［茨城県・茨城県つくば市・筑波大学］　平成23年12月22日指定

【目標】

つくばにおける科学技術の集積を活用したライフイノベーション・グリーンイノベーションの推進による産業化促進と社会実装

【目標実現に向けた取組】

サービスロボットの社会実装

生活支援ロボットの実用化

◆世界に先駆けて生活支援ロボットの安全性評価基準を確立し、国際標準規格へ反映した。

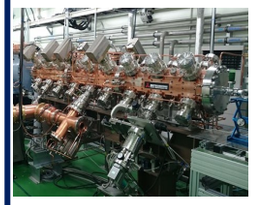
◆ロボットの開発から安全性試験、安全認証までの国際的なエコシステムを構築し、つくばで認証されたロボットの世界的普及を目指す。

革新的な医薬品・医療機器・医療技術、機能性食品等の開発

植物機能を活用したヒトの健康増進に資する有用物質生産システムの開発事業化

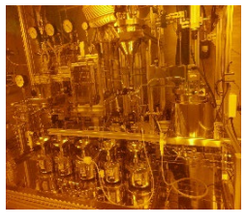
◆ヒトの疾病予防、健康増進に資する有用物質（GABA、ミラクリン等）を、トマトなど容易に栽培できる植物を利用して生産するシステムの開発・事業化を図る。

次世代がん治療法（BNCT）の開発実用化



◆未だ治療法が確立されていない難治性がん、再発がんに対して、治療効果が期待でき、患者のQOLも高い画期的な次世代がん治療（BNCT）の開発実用化を目指す。

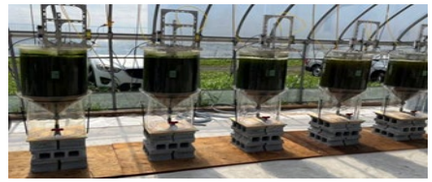
核医学検査薬の国産化



◆核医学検査薬（テクネチウム製剤）の原料であるモリブデン-99について、ウランを原料としない製造技術を確立し、核医学検査薬の国産化の実現を図る。

環境・エネルギー分野の課題解決と産業創出

藻類バイオマスエネルギーの実用化



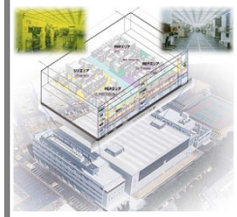
◆石油代替燃料として期待される藻類オイルの大量生産技術を確立し、世界的エネルギー問題に貢献するとともに、健康食品や医薬品など、藻類が有する機能を応用した産業の創出を図る。

戦略的都市鉱山リサイクルシステムの開発実用化

◆資源循環型社会の実現に資するため、廃家電等からレアメタルなどの有用金属を経済的・効率的に取り出す、革新的リサイクル技術（廃製品の自動解体や高品位選別システム等）の開発を目指す。

オープンイノベーションプラットフォームの推進

TIA世界的イノベーションプラットフォームの形成

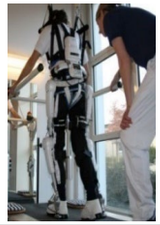


◆我が国のイノベーション創出を加速することを目的として、6機関（産総研・NIMS・筑波大・KEK・東京大・東北大）が連携し、総合的な研究能力を結集して、知の創出から産業化までを一貫して推進する。

つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発

◆つくばライフサイエンス協議会との連携の下、世界最大規模の生物医学資源を活用し、革新的な創薬シーズの開発、市場化を目指す。

革新的ロボット医療機器・医療技術の実用化と世界的拠点形成



◆世界初のロボット医療機器HALを用いた「サイバニクス治療」の適応疾患の拡大および世界展開を推進する。

◆サイバニクス治療と、医薬品や再生医療等との複合療法を実現する。

【規制の特例措置・支援措置の活用状況】

○規制の特例措置　**［国との協議23件、うち法令等の措置合意１件］**搭乗型移動支援ロボットの公道実証実験を実施する際の保安要員に係る要件緩和（構造 改革特区の規制の特例措置の要件緩和）

○財政支援措置　**［活用実績 特区調整費:約26.4億円］**次世代がん治療法（BNCT）の実用化［約12.62億円］、藻類バイオマスエネルギーの実用化［約5.36億円］、核医学検査薬の国産化［約3.6億円］等

○税制支援措置　**［活用実績１件］**次世代がん治療法（BNCT）に係るホウ素薬剤の開発に向けた装置の導入